



令和元年度

## 太田小だより 特別号

(1月8日発行)

住所 岩槻区仲町1-17-3  
電話 048-756-0515  
FAX 048-758-7487  
メール [ota-e@saitama-city.ed.jp](mailto:ota-e@saitama-city.ed.jp)  
Web ページ <http://ota-e.saitama-city.ed.jp>



## 「競う」

校長 笠原 実

皆様、明けましておめでとうございます。

3学期が始まりました。子どもたちも元気な姿で学校に戻ってきてくれました。3学期は学年の総まとめの学期となります。私たち教職員は子どもと共に目標を明確にもち、学力面でも生活面でも、その学年で身に付けるべきものをしっかりと身に付けられるようにして、次の学年に進級できるように頑張っていきたいと思います。今年もよろしくお願いします。

今年の我が家のお正月は、例年通り家でのおんびり過ごさせていただきました。二日、三日は、箱根駅伝を見るためにテレビにくぎ付けになるのも恒例です。結果は、青山学院大学が2年ぶり5度目の総合優勝を果たしました。やっぱり強かったなと感じました。ですが、今年一番感動したのは3位争いでした。

帝京大、東京国際大、明治大の3校を振り切ってゴールしたのは國學院大学でした。5位でたすきを受けたアンカーで2年生の殿地選手。順位を二つ上げ、4校のデッドヒートになった3位争いからゴール直前で抜け出し、見事に昨年の7位を上回る総合3位に入りました。10区は平たんなコースではありますが、最終区間であり沿道の応援も非常に多いので、大きなプレッシャーがかかる区間と言われています。そこで最後まで4校で競い合うのはさぞかし大変だろうと思いましたが、逆に最後までよい緊張感が続いて、実力以上の力が出ることもあるのでは？とも感じました。

今年は2020年、東京オリンピックが開催される年でもあります。卓球女子代表選手に平野美宇選手が選ばれたことにとっても感激しています。平野選手は、前回のリオ五輪の時には、惜しくも代表選手には選ばれず、団体戦のリザーブとして、代表選手の練習相手として裏方の仕事をがんばっていました。試合の時に、代表選手の後ろに映っている平野選手は、悔しさを必死にかみしめているように見えました。平野選手の素晴らしいところは、その後、悔しさをバネに、たくましく成長したところです。目つき、顔つきが変わったと感じるのは私だけではないはずです。ただ、この頑張りが続いたのは、周りによいライバルがいたからではないかと思うのです。今回も代表に選ばれた伊藤美誠選手とは、小さいころからダブルスを組み切磋琢磨してきた仲で、現在も個人戦では抜きつ抜かれつで実力が拮抗しているそうです。中国の丁寧選手とは、外国人選手の中で一番対戦が多く、また最も多く負けている相手なのだそうです。

私は、決して負けん気が強い方ではありません。争ったり競い合ったりする前に、その場から逃げてしまうタイプです。でも、箱根駅伝やオリンピック選手を見ていると、ここ一番で力が出るのは「負けない！」という強い気持ちと、その気持ちにさせてくれるいいライバルがいることが重要であることを改めて教えてもらいます。子どもたちは、これからも度あるごとに競い合う場面を経験することになると思います。その時にはそこから逃げずに、相手を認め尊敬し、いいライバル関係になってくれることを願っています。

実は、三日は我慢できずに、大手町のゴール近くに見に行ってしまいました！でも、すごい人混みで何も見えず、帰ってきてから録画を見たのでした。そんなもんです。